

いわけではなく、出逢った人たちが満足であればよい。NPOは山のよ  
うに、多くの人の通過点なのだ。

活動を始めて13年目となる今、最初  
のスローガンとして掲げた「I am  
ok. You are ok. We  
are a-ok」に立ち返る。  
私は私であっていい。あなたはあなた  
であっていい。私たちは違っけれど、  
それぞれにいい。私の居場所を得たい  
ために、他者の居場所をつくってき  
た。そして、それぞれの私たちの居場  
所になった。多くの違いを超えて…。  
今後、担い手は変わっていったとし  
ても、知恵を出しあいながら違いを  
乗り越える工夫をし続け、自分が尊  
重されるために多様性にみちた社会  
を創造し続ける未来があることを、  
私は想像している。



## 一座談会

### 〈活動すること〉と〈仕事すること〉を考える

ボランティアであるとい  
うこと

A…Bさんは長くセンターの活動に  
かわかっておられるけど、きつかけ  
は？

B…私は幼稚園の先生を3〜4年し  
て、出産を機に退職しました。その  
ころ、保育ボランティアをしないか  
と声をかけられたのが始まりです。  
仕事をしたいと思ったわけではな  
く、そろそろ子どもたちに会いたく  
なって。1回2000円ぐらいの報  
酬がありました。へへ、もらえる  
んや、と意外な感じでした。稼いだ  
うれしさというより、楽しかったな  
あという心地よさがセンターへのか  
かわり続け、拡げてきたのだと思  
います。

仕事はしんどくて厳しかった。子  
ども観が違うというか、そんなかか  
わり方でいいのかなと思っても言え  
ない。自分でも実践できなくてモヤ  
モヤしていた。それが、センターの  
保育ボランティアでは、責められた  
り、批判されたりすることなく、安  
心して子どもや保育についていろ

ろ話すことができずすっきりした。

A…Cさんはまったく手弁当でセン  
ターのいろんな活動にかかわってく  
ださってますよね。

C…私は、今はしたい仕事が少ない  
がなく、時間にゆとりがある一市民  
の社会的役割として市民活動に参加  
しようと思っている。PTAの役員  
や生協の役員を引き受けてきたのと  
同じように、子ども情報研究セン  
ターの活動に参加している。

世間でいうボランティアというこ  
とにはびっくりかきを感じている。  
そうではなくて、社会には必要だけ  
れども対価が支払われないアンペイ  
ドワークがたくさんあるでしょ。そ  
こを拒おうと思つて、センターの活  
動にかかわってきた。

B…私もボランティアということば  
はしっくりこない。人のためとか奉  
仕的な意味あいを感じるから。たと  
えば、チャイルドラインは子どもの  
ためということではなく、子どもの  
声が聴きたいから聴いているとい  
うことだと思つ。

A…子どもの声を聴きたいおとなが